

酒田市立南平田小学校 防災マニュアル ver.2

リーフレット版



酒田市立南平田小学校

電話 0234-52-2009

FAX 0234-52-3759

メール minamihirata@sakata.ed.jp

1 学校と学区の状況（南平田小学校の学区って、どんなところ）

(1)	校舎・校地	① 耐震強度診断によれば、本校の校舎の躯体は震度6～7にも耐えられる。
(2)	学区・地形 気候	① 学区内は沖積平野と丘陵山地にまたがり、海岸からも遠い。明治27年には東縁断層帯に於いて推定震度7の直下型地震も起きており、今後も想定震度6強の直下型地震が懸念される。 ② 田園地帯において集落が散在しており、台風接近時や晩秋から冬にかけての庄内地方特有の季節風の時期の登下校では暴風雨(吹雪)への備えが必要である。
(3)	想定される ハザード	① 地震 学区内に「庄内平野東縁断層帯」が南北に走っている。想定震度は「震度6強」直下型の地震発生の恐れあり。 ③ 川の氾濫、洪水 学区の南端に1級河川の最上川。H30. 8月には県内を襲った局地的豪雨により氾濫警戒水位に達し、学区の一部に「避難準備情報」が発令された。最上川堤防決壊時の浸水想定は、学校周辺で3m未満、砂越地区で5m未満、飛鳥地区で5m以上とされている。 ③ 暴風雨(暴風雪)・台風 酒田市の最大風速は37.3m/s、暴風日数は90.7日に達する。登下校時の安全確保、台風の接近数は年平均2.2個、冬の季節風への対応。 ④ 土砂災害 山間地区には土砂災害警戒区域(土石流、がけ崩れ、地すべり)あり。 ⑤ 落雷 雷の発生は、一般的には6月から8月に最多の傾向があり、また晩秋から冬にかけて第2のピークがある。しかし、酒田の場合は特に冬に多発の傾向があり、暴風雪と関連させて、適切な管理と指導を行う必要がある。 ⑥ 熊の出没 東陽地区、檜橋・山楯地区では毎年のように熊の出没が確認され、頻度が増加する傾向にある。校外学習や自然体験学習、登下校中や帰宅後のクマ対策も必要である。

2 危機発生時の緊急配備計画

《 管理下外の対応 》

(1) 震度4、大雨・洪水警報、学区の河川氾濫警戒水位に到達、猛烈な台風接近

：警戒配備（警戒レベル3 相当）

⇒ 校長、教頭、（必要に応じて教務主任）は学校に配備

(2) 震度5弱、猛烈な台風、大雨・洪水、河川氾濫等により大きな被害が予想される場合

：第一次非常配備（警戒レベル4 相当）

⇒ 校長、教頭、教務主任、安全主任、ブロック長は学校に配備

(3) 震度5強、大雨、暴風（雨・雪）、洪水特別警報発令、大規模土砂災害発生

：第二次非常配備（警戒レベル5 相当）

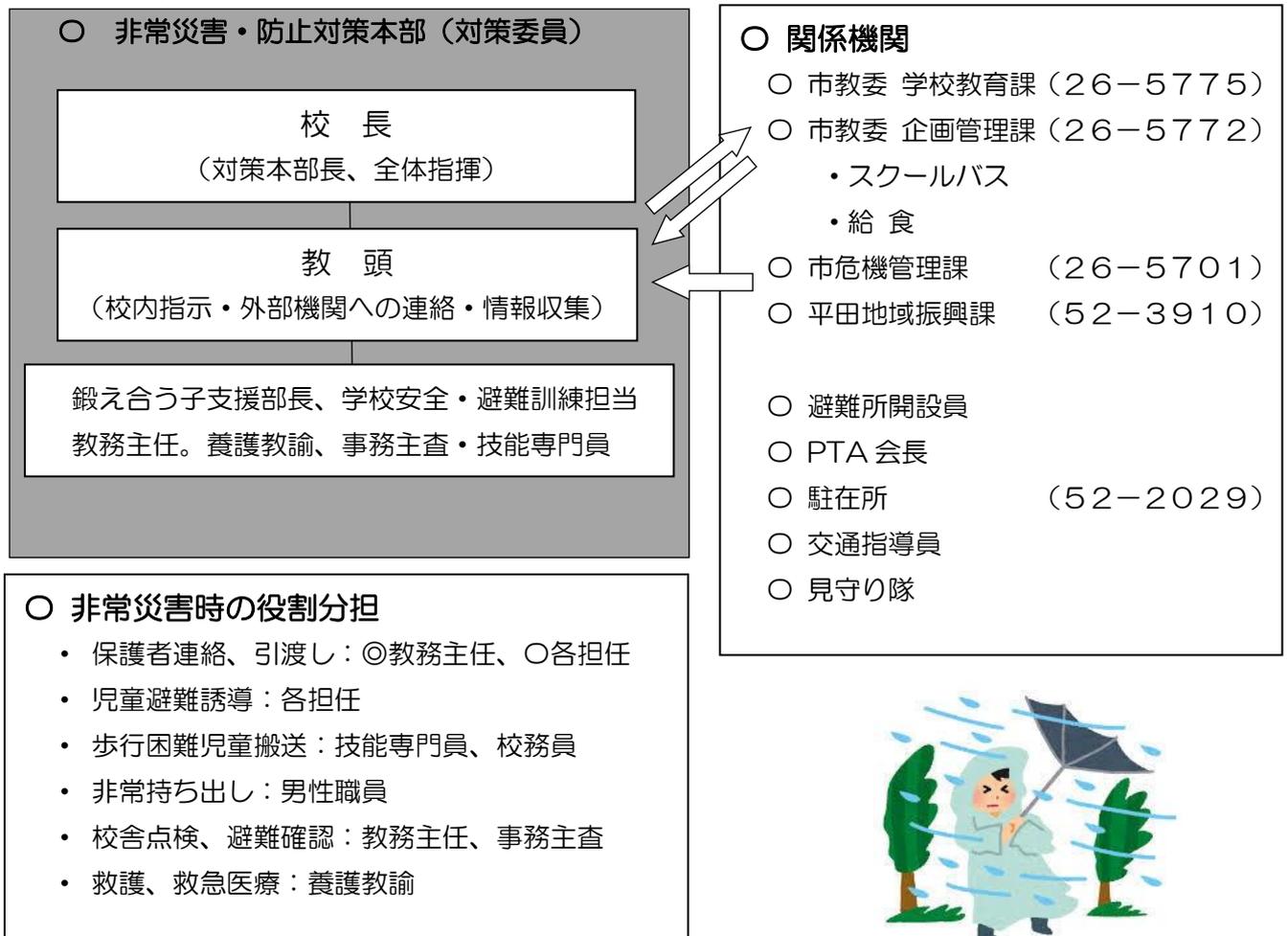
⇒ 全職員は学校に配備

《 管理下での対応 》

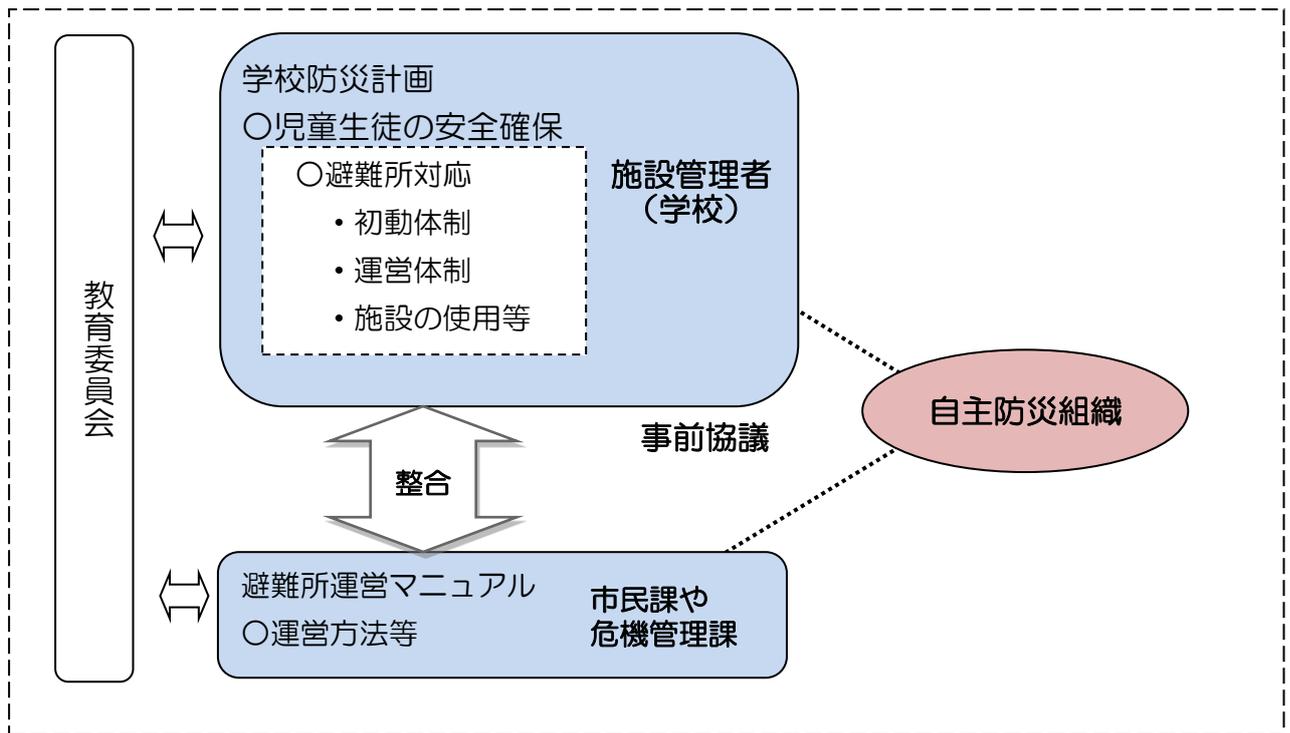
(1) 校長の指示・命令系統に従い、警戒レベルに応じて、下記の対策本部により組織的に対応する。



3 情報連絡体制図と学校組織



4 避難所対応について



5 熊出没時の対応について

児童の安全確保を最優先し、駐在所・平田地域振興課と連携し対応。市教委へ報告。

	校地周辺	校地外、通学路周辺
管理下内（登下校中 ・授業中・課外活動中）	<ul style="list-style-type: none"> 校舎内にて児童の安全確保 熊の校舎内侵入を阻止 必要に応じて集団下校または保護者へ引き渡し 	<ul style="list-style-type: none"> 安全が確認されるまで、児童を校舎(安全な場所)に留め置き待機
管理課外 (登校前・下校後 ・休業日等)	<ul style="list-style-type: none"> 熊の校舎内侵入を阻止 児童は自宅待機 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携し対応

- ・平田駐在所（52-2059）
- ・平田地域振興課(市民係 52-3910)
- ・酒田市教育委員会（学校教育課 26-5775）
- ・PTA 会長
- ・見守り隊



6 地震時の避難行動

《 基本行動 》

- ① 「自分の身は自分で守る」ことを基本に、落ち着いて行動する。
- ② まわりをよく見て、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所で揺れがおさまるのを待つ。
- ③ 机やテーブルの下にもぐり、脚をつかみ、揺れがおさまるのを待つ。

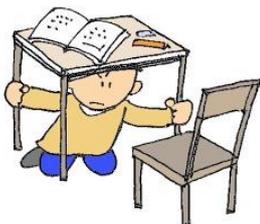
《 学校にいる時 》

① 自分の身を守る

- 体育館など広い場所にいたら、中央付近にしゃがんで、揺れがおさまるのを待つ。

② 避難する

- 放送や先生方の指示に従い、「お・か・し・も」の約束を守って、落ち着いて行動する。
- 指示があるまで、その場で落ち着いて待つ。



《 登下校中 》

① 自分の身を守る

- 建物（かわら）、ブロック塀や自動販売機など、倒れやすい物から離れ、安全な場所に移動する。
- かばんやバッグなどで頭を守り、しゃがんで揺れがおさまるのを待つ。
～ スクールバス乗車中は、運転手さんの指示に従う ～

② 避難する

- 近くに大人がいる時は、大人に助けを求めて一緒に行動する。
- 学校が近いときは学校へ、家が近いときは家へ避難する。

《 家や他の場所にいる時 》

① 自分の身を守る

- あわてて火を消しに行ったり外に飛び出したりしない。
- 揺れがおさまったら窓を開ける。

② 避難する

- うちの人と一緒に避難所等へ避難する。
- 建物（かわら）、ブロック塀や自動販売機、門柱、自動車などに気をつけて移動する。
- うちの人がない時は近所の人と一緒に避難する。

～ 海の近くにいる時は、高台に避難する～

《 保護者の皆様へ 》

- 学区に震度4以下の地震があった場合は、原則として通常通りの授業を実施します。状況に応じて、臨時休校や一斉下校など対応することもあります。
- 学区に震度5弱以上の地震があった場合、学校の時間帯であれば、安全が確認されるまで、全員を学校に待機させます。保護者の皆さんも、ご自身の安全確保を第一に行動し、危険を回避してください。
- 児童の引き渡し、臨時休校、登下校時刻の変更は基本的に安心安全メールを使って連絡します。連絡が無くても、危険な状況と判断した場合は自宅で待機させてください。